親子聖書日課

NO.1989　2026.11/8-14　　名前

[日]主の日がすでに来たとか,終わりの日には恐ろしいことが起こると言いふらす人がいますが,惑わされてはいけません。信仰者にとって終わりの日は,喜びの日ですから,期待して待ち望み,今すべきこと,特に主の業に忠実に励みましょう。

[月]主は私達を愛するが故に,「霊の力と真理に対する信仰」によって救いに導きました。救いに留まるには「説教や手紙で伝えた教えを固く守り続ける」ことです。御言葉に聴き従う時,主は私達の心を励まし,主を証する善い働きに導かれます。

[火]「働かざる者,食うべからず」とは,聖書の言葉です。人の好意に甘えてばかりいてはいけません。お参り信者ではなく,奉仕を見つけて,一生懸命担うことです。すると霊的な恵みが沢山与えられます。「怠惰な生活」は,人生の無駄遣いです。

[水]パウロは自分を,「罪人の中で最たる者」と呼びました。これは彼が犯した罪の大きさによるのはなく,彼の罪への認識の重さを表します。だから「キリストは,罪人を救うために世に来られました」と確信をもって語りました。罪を自覚しよう!

[木]祈りは自分のためにではなく,全ての人のために捧げるものです。政治家が神の御心に沿った政治ができるように,又「全ての人が救われて真理を知るように」祈ることです。祈りには,人を変え,家庭を変え,社会を変える力があります。



[金]奉仕者には共通した資質が求められます。それは「品位のある人」で「自分の家庭をよく治める人」です。家族を大切にし,クリスチャンホームを築くことによって,教会で十分な奉仕ができます。家族を大切にしているか,振り返ってみましょう。

[土]私達は救われてからも,罪に陥りやすいのです。そこで「信心のために自分を鍛える」ことです。体のために毎日トレーニングが必要なように,信心のために毎日御言葉に聴き従うことです。自分に甘えていては,信仰の成長はありません。

	聖書	問　題	答　え
日	Ⅱテサロニケ 2:1-12	真理を信じないで不義を喜んでいた者は,皆,どうなりますか。	
月	2:13-3:5	説教や手紙で伝えた教えをどうすべきですか。	
火	3:6-18	働きたくない者は,どうしてはなりませんか。	
水	Ⅰテモテ 1:1-20	キリスト･イエスは誰を救うために世に来られましたか。	
木	2:1-3:1	神は誰が救われて真理を知るようになることを望んでおられますか。	
金	3:1-16	奉仕者は,子供たちと何をよく治める人でなければなりませんか。	
土	4:1-16	信心のために自分をどうすべきですか。	
感想と祈りの課題			